

## 歴博くらしの植物苑だより

くらしの植物苑観察会 13:30 から くらしの植物苑東屋

3月22日(土) 『古代のウメとサクラ』 仁藤敦史 (本館研究部)

4月29日(火) 歴博みどりの日 入苑無料

『新緑の城址公園を歩く』 中川重年

くらしの植物苑今週のみどころ 毎週更新 <http://www.rekihaku.ac.jp>

今見られる花：スイセン。フクジュソウ、アカバナマンサク、シナマンサク、  
紅梅、白梅、ハルサザンカ群の品種、ツバキの品種、ヤブツバキ、ナバナ

### 本館第3展示室

#### 3月18日(火) リニューアルオープン

江戸時代の人びとの生活や文化を展示しています。「国際社会のなかの近世日本」「都市の生活」「ひととものながれ」「村からみえる『近世』」の4つのテーマが紹介されています。

江戸時代は今ご覧いただいている、サザンカの世界や、桜草、朝顔、菊といった、この植物苑の企画展と深い関係があります。本館とあわせてご覧ください。

**お知らせ** 3月18日(火)から、本館・くらしの植物苑の入館・入苑料が小・中学生は無料になります。毎週土曜日は高校生も無料になります。

#### 季節の伝統植物 『伝統の桜草』

4月15日(火)から5月6日(火)

写真は展示用栽培鉢です。約350品種700鉢の

桜草は、見ごたえのある展示です。展示では、

幕末には確立された桜草の観賞法の一つ、桜草

雛壇の復元に桜草を展示いたします。また4月15日(火)からくらしの植物苑内で、桜草の有償頒布を行います。時間は9:30から12:30までで1鉢、500円



ハルサザンカ群 “蜀紅錦”

濃紅地に白星斑の一重咲です。「日渉園茶梅譜」(1885年)に記録があります。久留米や平戸など九州に古木の記録が多いです。





ハルサザンカ群 “紅雀”

桃紅色の八重咲の極小輪。京都・霊鑑寺の八重  
侘助が原木です。関西では散姫とも呼ばれていま  
す。



ヒメサザンカ (ツバキ科)

南西諸島の沖永良部、沖縄、久米、石垣、西表  
に固有の種で、常緑樹林に生育しています。花に  
香りがあるので、香りのよい園芸品種を作る親と  
してよく使われます。



オオイヌノフグリ (ゴマノハグサ科)

畑や道端に生える2年草。明治の中頃に日本に  
入った帰化植物です。日の当たっているときだけ  
花が開き、紫色のすじのある小さな花をつけます。  
花冠は4裂し、上部の裂片がやや大きい。雌しべ  
2個が見えます。中：波斯婆婆納といひます。



ホトケノザ (シソ科)

葉が段々のつくことから、三階草とも呼ばれる  
2年草です。小さな唇形花を密につけます。花の  
中には、つぼみのまま結実する閉鎖花が多数まじ  
ります。英：Henbit, 中：宝蓋草といひます。  
春の七草のホトケノザはキク科のコオニタビラコ  
のことです。

